

第33回 今日の作家展

都市の情景：複数性のなかの単一性

The 33rd 'Artists Today' Exhibition

Singularity in the Plurality

1997年11月1日(土)→18日(火) 横浜市民ギャラリー3F展示室

休館日=11月10日(月)/時間=午前10時→午後6時/入場無料/主催=横浜市民ギャラリー・横浜市
お問い合わせ=横浜市民ギャラリー Tel.045-224-7920 〒231 横浜市中区万代町1-1(横浜市教育局文化センター内) JR関内駅南口下車(改札右側正面)
ゲスト・キュレーター=近藤幸夫 Yukio Kondo (慶応大学助教授) 出品作家=荒木経惟 Nobuyoshi Araki/大村益三 Masumi Omura
/小金沢健人 Takehito Koganezawa/藤堂良浩 Yoshihiro Todo/宮前正樹 Masaki Miyamae/村上 隆 Takashi Murakami
関連行事=11月16日(日) 午後2時よりゲスト・キュレーター、出品作家によるギャラリートーク (参加予定作家については電話にてお問い合わせ下さい)

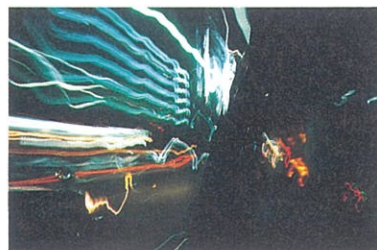
第33回 今日の作家展 都市の情景：複数性のなかの単一性

The 33rd 'Artists Today' Exhibition Singularity in the Plurality

本展のテーマは「都市」です。皆さんは展示会場で、日々の都市生活の中でみられたものをいくつも発見することでしょう。自動車の部品、アニメのキャラクター、コンビニの看板、そして、どこにでもあるような街角の風景など。それら都市の情景を構成している一見無個性な要素をあえて使うことにより、現代美術のアーティストたちは私たちに何を訴えようとしているのでしょうか。

大村益三は、断片や部品を配置することによって、見るものに自動車などの全体像を感じさせようと試みます。藤堂良浩は、日常みられたプラスチック製品を彫刻作品に変身させようとします。宮前正樹は、コンビニエンスストアやファミリーレストランのロゴを伝統的な水彩画の技法で描き絵画とは何かを考えようとします。村上隆は、マスメディアの中に氾濫するアニメキャラクターのようなモチーフを巧みな技術で日本画の中に組み込み、絵画に秘められた欲望について考えさせます。この中で一番若い小金沢健人は、手作りの模型を撮影したビデオインスタレーションによって都市生活の不気味なイメージを凝縮しようとします。写真家荒木経惟は、今回、写真と版画作品を出品しますが、そこでは猥雑な都市生活が扱われながらも、それが浄化され強烈な叙情性を発散しています。

また、この展示会は、神奈川版画アートラリーの一環としても企画されています。展示されている作品のすべてが版画というわけではありませんが、版画が今日の美術のなかで提示した大きな問題、つまり、美術作品の大衆化と作品の複数性に焦点をあてています。複製され大量生産、大量消費される社会のなかでアートはどのように自らのアイデンティティを築くことができるのでしょうか。第33回をむかえた「今日の作家展」では、そのような複数性のなかの「アートの力」について6人のアーティストの作品とともに考えてみたいと思います。



荒木経惟《都市は色光線》カラープリント 1997(本展出品予定)



大村益三《End of Start/Start of End (Rover)》アルミ、アクリル絵具 1996 (参考掲載)



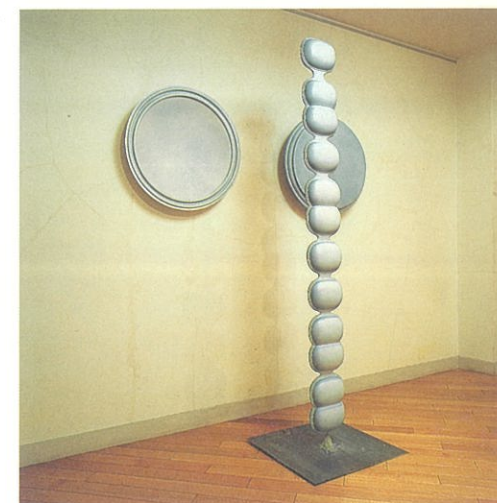
宮前正樹《7 ELEVEN》水彩、ボード 1997(本展出品予定)



小金沢健人《Untitled》VTR 1997(参考掲載)



村上隆《727》キャンバスにアクリル絵具 1996(本展出品予定)
photo: Norihiro Ueno



藤堂良浩《Untitled》FRP 1990(参考掲載) photo: Etsuhiro Sasaki



お問い合わせ：横浜市民ギャラリー（教育文化センター内）Tel.045-224-7920
〒231 横浜市中区万代町1-1 JR関内駅南口下車（改札右側正面）